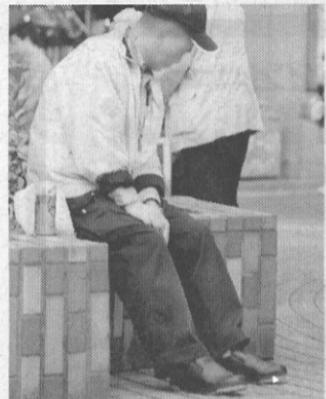


医者も知らない平穏死



連載⑩

△長尾和宏△長尾クリニック院長△日本尊厳死協会副理事長。著書に『平穏死』10の条件など。



自分の意思を伝えられなくなつた時のために

認知症や老衰の末期になると、自分の意思を周囲に伝えることができなくなります。平穏死を望む高齢の方からよく受ける質問は、「家族は私が代わって、延命治療を拒否してくれるでしょうか?」ということ。

「リビング・ウイルトを関の初診時に提示すれば、もし意思表示できなくなりても、自分の意思す。以前にも紹介したことがあります。が、リビング・ウイルとは、生きているうちに自分の延命治療に関する意思を表明する」とあります。また、「延命治療を拒否する」という希望を書面

なると、自分の意思を周囲に伝えることができなくなります。平穏死を望む高齢の方からよく受ける質問は、「家族は私が代わって、延命治療を拒否してくれるでしょうか?」ということ。

部長を務める「日本尊厳死協会」という社団法人が「リビング・ウイルカード」を発行しています。この場合、大事なのは、ご家族だけではなく、死後方をあらかじめご家族にしっかりと伝えておくこと。

認知症や老衰のCさんが、こんなことをおっしゃっていました。「母は70歳を越えたあたりから、お母さんの希望を伝え、何度も『人間の呼吸器や胃ろうはやくも、Cさんは、常にリビング・ウイルカードを持ち歩いてね。自然に逝かせてしまっているそうです。もし

す。このカードを医療機関の初診時に提示すれば、もし意思表示できなくなりても、自分の意思す。以前にも紹介したことがあります。が、リビング・ウイルとは、生きているうちに自分の延命治療に関する意思を表明する」とあります。また、「延命治療を拒否する」という希望を書面

心臓が止まつても、それが寿命なんだから、救急車を呼ばないで。心臓マッサージはごめんだからね」と言つていました。聞いた時は、「不吉なことを言うな」と思っていたけど、母の言葉がなければ、延命治療を拒否する勇気がなかつた

当时、お母さんは医師から冒ろうを勧められたのですが、Cさんが断固拒否しました。それを親戚から責められた時は、お母さんの希望を伝え、お母さんとの経験から説得したのでした。

お母さんとの経験から、Cさんは、常にリビング・ウイルカードを持ち歩いています。もし

(写真はイメージ)